

令和5年度地域連携薬局等認定取得のための研修会にかかる意見結果

標記研修会において実施したグループワーク「認定取得にかかる懸案事項やその解決策等」において参加者から出た意見は下記のとおりでした。なお、同様の意見は集約してとりまとめています。また、一部は質問があった内容への回答として記載しています。

認定基準	認定基準に対する懸案事項	解決策や参考となる取組など
医療機関への情報提供（月平均30回以上）	情報提供時にかかる記録作業に時間がかかる	ひな形を作成しておく 書き方は短くまとめて負担にならないようにする
	文書による情報提供が求められているがどの程度の情報提供手段や記録方法であれば認められるのかがわからない	電話で伝えた内容を改めてFAXで送信して文書として記録・保管する メールでの情報提供は印刷して保管・記録する 地域でお薬手帳に情報提供事項を記録することが申し合わせできているなら、お薬手帳の記録をコピーしてFAXで提供すれば実績となる
	【質問】LINE等による情報提供を認められるのか？	【回答】報告及び連絡に用いる文書（地域情報連携ネットワーク等を含む）の様式は、地域の医師会、薬剤師会等とあらかじめ協議されたものを用いる必要がある。情報提供手段としてLINE等を使用することについては、地域であらかじめ協議されているのであれば差し支えない
	どんな情報であれば実績とできるのかわからない	レアケースではなく日常的な情報から意義あるものを提供することが重要 医師からの残薬調整依頼に対して単純な報告だけではなく、アセスメントを付加した情報であれば実績になる OTCの服用状況や検査値を踏まえたアセスメントを行う リフィルならその都度の服薬状況報告や残薬状況報告が情報提供実績とできる 疾患に対する患者や家族の理解度・認知度について報告する 患者が医師に言い忘れたこと聞き忘れた情報を報告する 抗がん剤治療中は積極的な情報提供を医療機関側から求められるので副作用有無等の継続的な報告は意義がある 新型コロナウイルス感染症患者の自宅療養中の状況については情報提供する意義がある 診療科ごとに良い事例や好ましくない事例などをデータベース化して見れると良い 出荷調整中の医薬品に関する情報提供でも、代替薬提案も含める等のアセスメントがあれば実績になる

	月平均30回以上の条件を満たすのが難しい	在宅の報告書が実績となるので在宅の件数を増やせば情報提供件数が増える
		地域で開催される会議等に積極的に参加してケアマネとの連携を図れば情報提供の機会を増やすきっかけになる
		重要性が高いものは1つの医療機関だけではなく、複数機関（病院、診療所、薬局、介護老人保健施設など）へ情報提供が必要である。複数機関に情報提供すれば結果的に実績件数も増えると考え
	入退院時に情報提供することが困難	特別養護老人施設等の利用者が入院される際には、施設から薬局に事前連絡してもらつ体制を構築しておいて、入院先医療機関に情報提供をする
	医師が欲しい情報がわからず、情報を受領する医療機関側にとっては情報過多となり嫌がられそうに感じる	提供する情報は加算は関係無く患者の同意が不要なものもあるため、あらかじめ医師と提供する情報を整理しておくことが大事 病院や診療所に訪問して話しやすい関係性の構築に取り組む
楽しさ（意義）を感じれないと業務として継続が困難		薬剤師として患者の生活に介入することの楽しさ（意義）を感じれるように好事例を県内で共有化する
		提供した情報に対するレスポンスを求めるようにすれば情報提供に対する意義を感じることが出来る
無菌製剤処理への対応	無菌製剤処理設備の導入費用が負担である	小規模事業の補助金を活用する 複数店舗を開業している場合は、1店舗がクリーンベンチを所有してグループ内で共同利用すれば導入費用が抑えられる
	共同利用できる薬局を見つけるのが困難で共同利用契約方法もわからない	地域薬剤師会が共同利用できる薬局の情報等を共有して共同利用を推進する 会営薬局の共同利用契約書ひな形があるので、その契約書ひな形を活用すると良い
	他の対応可能薬局の紹介にあたって紹介先が遠方の場合は患者にとって負担がかかる	地域薬剤師会などが地域ごとに共同利用できる設備を設けるようにする
地域ケア会議・サービス担当者会議等参加（年1回以上）	会議に呼ばれない	地域薬剤師会の役員に就任すると行政主催会議の出席を依頼されることがある 在宅訪問時などケアマネとの連携や面会の機会を増やして会議に呼ばれるようにする
		地域によっては各種事業の開催スケジュールが公表されているため、事業に参加して顔つなぎを行い、実績と出来る会議への参加につなげるようにする
		ケアマネや看護師に対して、嚥下困難や残薬など薬剤師だから把握できる情報を日頃から発信していけば会議への参加に繋がる

	在宅開始時にしかサービス担当者会議が開催されず定期的な参加が困難	介護区分やデイサービスが変わるタイミングで開催される会議に参加する
		在宅の件数を増やせば会議の機会も増える
	会議の開催時刻によっては他の業務の都合で参加できない	オンライン型の会議であれば参加可能
	会議に参加しても薬剤師としての話題が無く、薬剤師が主催できる会議は実績にならない	薬剤師として自ら話題を作るように心がける
常勤薬剤師の半数以上が健康サポート薬局の研修修了	健康サポート薬局研修の機会が少ない	県薬剤師会主催研修以外にも日本保険薬局協会等の研修を受ければ良い
	研修費用が負担と感じる	会社が受講費用を補助して個人の負担としないようにする
	研修に対する意識が低い者は受講が進まない	地域で活躍できる研修であることを意識づけるように教育する
休日夜間の調剤対応	人員や薬の確保が困難	休日夜間は自宅で電話対応とし、直ちに投薬が必要ならば調剤必需する体制とすれば良い